

おうぎのウリハムシモドキ（新寄主）

令和3年7月下旬、空知管内の露地ほ場において、生育初期のおうぎ（ナイモウオウギ、在来系統）の葉に食害が確認され、前翅が黄褐色で体長6～7mm程度の甲虫が認められた。1株あたり1～数頭が地際部から高さ約20cmまでの茎に寄生し、生長点付近の葉身がほとんど食害された株では生育が著しく停滞した。外部形態からウリハムシモドキ *Atrachya menetriesi* (Faldermann) と同定した。また、おうぎに放虫したところ同様の食害を確認した。本種は年1回発生し卵態で地表近くで越冬する。幼虫は5月中旬頃から現れ、マメ科を始め各種作物の葉を食害する。道内では大豆、マメ科牧草、ほうれんそうなどへの被害が報告されている。

（中央農試）



おうぎを加害するウリハムシモドキ（中央農試 野津原図）